

**スターバックス国内店舗で、サステナブルな未来につながる FSC[®]認証紙ストローでの提供を開始
2020年1月より段階的にスタート、同年3月に全店約1500店舗に導入し
年間約2億本分のプラスチックストロー削減へ**

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社[本社所在地:東京都品川区、代表取締役最高経営責任者(CEO):水口貴文]は、この度、国内のスターバックス店舗で、サステナブルな未来につながる FSC[®]認証紙ストローの提供を2020年の1月より開始することを発表いたします。



スターバックスは、2018年7月、2020年末までに全世界のスターバックスにおいて使い捨てのプラスチック製のストローを全廃することを発表しました。このコミットメントを受け、様々な素材を用いた検証の結果、この度プラスチックストローから紙製のストローへの切り替えを決定し、2020年1月より段階的に導入いたします。同年3月には1500店を超える日本のスターバックス全店舗において、紙製ストローでの提供を開始いたします。またこのストローはすべて、適正に管理された森林およびその他の管理された供給源からの原材料で生産された FSC[®]認証紙を使用しています。

加えて、一部のフラペチーノ[®]等に使用する太い口径のストローの切り替えは、2020年5月から順次行ってまいります。これらの素材変更により、年間約2億本分のプラスチックストローの削減に繋がります。

ストローの包材には、お客様と全国約4万人のパートナー(従業員)と共に、サステナブルな未来を目指すスターバックスの想いを5つのメッセージに託し記しました。

スターバックス コーヒー ジャパンの代表取締役最高経営責任者(CEO)、水口貴文は以下のように述べています。「2020年末までの使い捨てプラスチック製ストロー全廃のグローバルコミットメントを受け、スターバックス コーヒー ジャパンでは、私たちが求める品質に見合う代替品の検討に注力してきました。この度、2020年末を待たずしてゴールの達成を皆様にお知らせできることをとても嬉しく思うと共に、これからも技術と革新の進化に合わせて、お客様の期待を満たす最高のスターバックス体験を、サステナブルな方法で提供する機会を創出してまいります。」

持続可能性に挑むことは私たちスターバックスの DNA の一部でもあり、我々がミッションに掲げ、創業以来大切にしてきた「コミュニティへの貢献」のための一歩でもあります。引き続き、地域社会へ更にポジティブな変化をもたらすことを目指し、ストローのみに留まらず、店内で使用するその他の使い捨てプラスチック資材削減に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

※スターバックスは FSC[®]ライセンスナンバー、FSC[®] N002500 を取得しています。

倫理的なコーヒー豆の調達



コーヒー生産地が直面する課題を解決し、コーヒー生産者の生活をより良いものにするために、コーヒーの倫理的調達に取り組んでいます。長期的に高品質なコーヒー豆の生産を実現するための持続可能な調達モデル「C.A.F.E.プラクティス」を2004年に導入。2015年には、スターバックスが買い付ける全てのコーヒー豆の99%が、C.A.F.E.プラクティスやその他の認証プログラムの基準を満たしエシカルに調達されるに至り、以降継続しています。

マイカップ・マイタンブラーの推進



1996年に銀座に1号店をオープンして以来、ビバレッジをご購入の際、タンブラーやマグカップなどのマイカップをお持ちいただくと、環境への取り組みにご協力いただいたお礼として、税抜本体価格から20円を値引きしています。またご希望に応じて、店内でお召し上がりのお客様にマグカップでビバレッジをご提供しています。

環境にやさしい循環

➤ 豆かすりサイクルループ



関東と関西の一部の店舗で、コーヒー豆かすを回収し、リサイクル施設で牛の乳酸発酵飼料や野菜を育てるたい肥として再資源化しています。この飼料を用いて育てられた乳牛のミルクや、たい肥で育てられた野菜は、一部のスターバックス店舗で、ドリンクやサンドイッチの原材料として使われています。

➤ ミルクパックのリサイクル



全国の店舗から出る年間約1,000tのミルクパックは、市販されるトイレトペーパーやスターバックス店舗で使われるペーパーナプキンに生まれ変わっています。

環境にやさしい店舗



それぞれの地域性を活かしたデザインで、お客様と地域、自然をつなぎ、地域に愛される店舗づくりを心がけています。近年の未利用の国産木材の増加という問題に着目し、店内のテーブルやインテリアに、地元あるいは地域とつながりのある木材を使う取り組みを進めています。また、抽出後のコーヒー豆かすや火力発電所で発生する石炭灰などの廃棄物を利用して作られた再生材比率約60%の内装ボードを一部の店舗で使用しています。